

2. 集落市街地における住民意向（市民アンケート）

（1）調査概要

○調査の目的

府中市では、これまで各種計画策定にあたってアンケート等を通し、特に府中市が都市計画マスタープランの中で「生活中心街」と位置づけている市中心部のまちづくりに関する実態の把握に努めてきました。

今回、立地適正化計画において、市中心部以外の集落部についても任意の計画として位置づけていくにあたり、生活の実態や意向を把握するためにアンケート調査を実施しました。

○調査地域：

旧上下町、河面町、河佐町、久佐町、
諸毛町、小国町、阿字町、木野山町、
行滕町、斗升町、本山町、上山町、
荒谷町、三郎丸町、篠根町、父石町、
僧殿町、河南町、栗柄町、用土町、土生町



○調査方法

無作為に抽出した満 20 歳以上の男女 1000 人に調査票を発送

○調査期間

平成 28 年 9 月～10 月

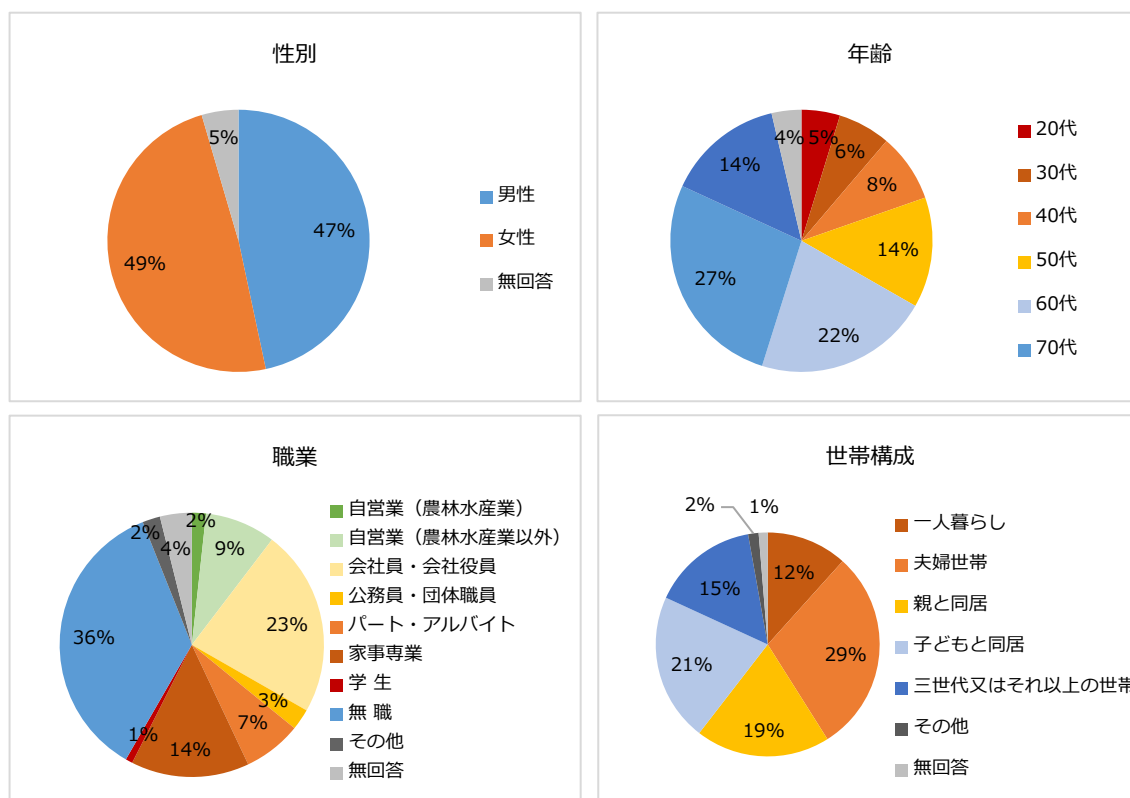
○調査項目

・居住期間、転居・転入の状況、居住継続意向、別居家族の状況、子育て・教育環境、交通手段、コミュニティ活動、公民館・集会所の利用状況、暮らしの満足度など

○回収状況

配布数	1000 部
回収数	463 部
回収率	46.3%

○回答者の属性



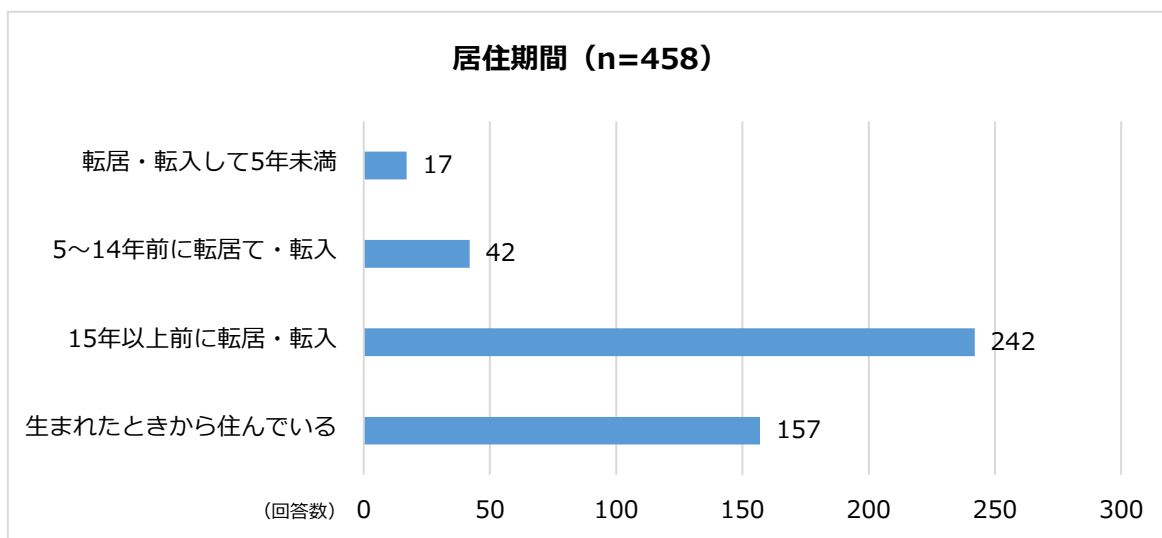
○調査結果の概要

- 世代別では、若い世代ほど、現在の暮らしに不満を抱いている人の割合が高く、将来の転居・転出を考えている人が多い傾向となっていました。
- そのような中、子育て環境については、親や地域との良好な関係により子育てしやすいと考える意見がある一方で、小児医療や子どもの通学手段に不満を持っているとの回答が、みられました。
- 転居・転出をする場合の候補地としては、市内では、高木町・中須町周辺、市外では福山市が多く挙げられていました。
- 運転できない家族の買い物等における移動手段は、「家族が運転する車」が多く、外出頻度については、「週2～3回」が多く挙げられていました。
- コミュニティ活動については、冠婚葬祭や祭りといったイベントを中心に、声掛けや安否確認、送迎・乗合せといった日常生活での助け合いも一定数見られました。
- 自治会活動における問題として、「参加者の減少、高齢化」「野生動物による農業被害」が多く挙げられていました。
- 公民館・集会所の利用については、「寄合」「祭等の行事」での利用が多く、利用頻度は「年数回」が多い状況となっていました。

(2) 調査結果

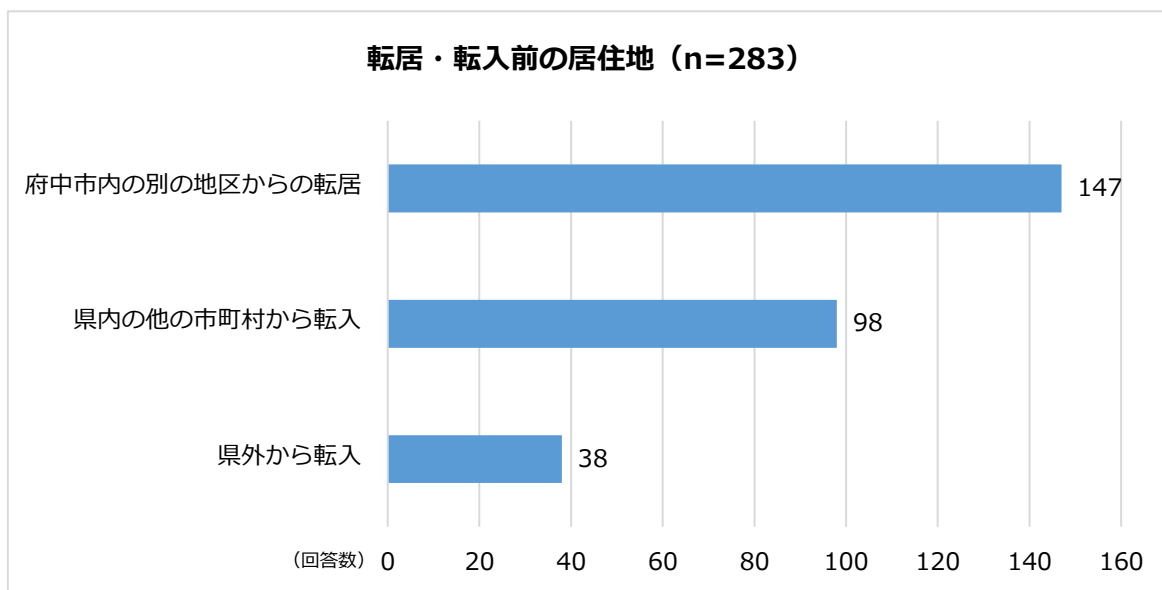
①居住期間について

- ・15年以上前に転居・転入してきた人が多い状況となっています。

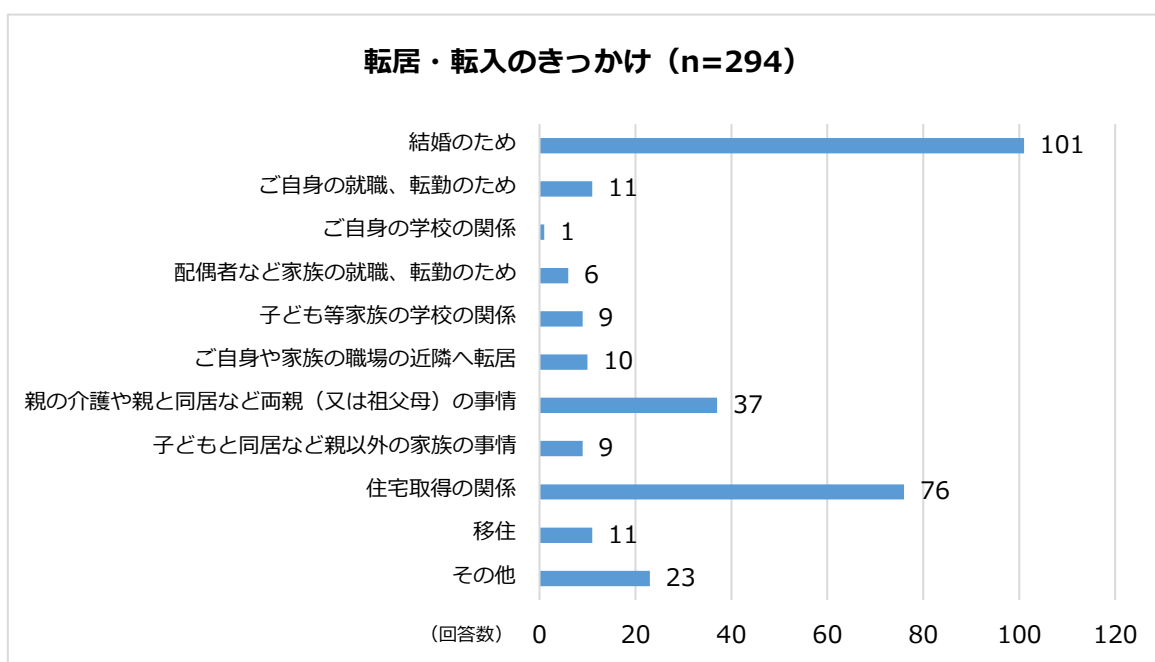


②転居・転入の状況について

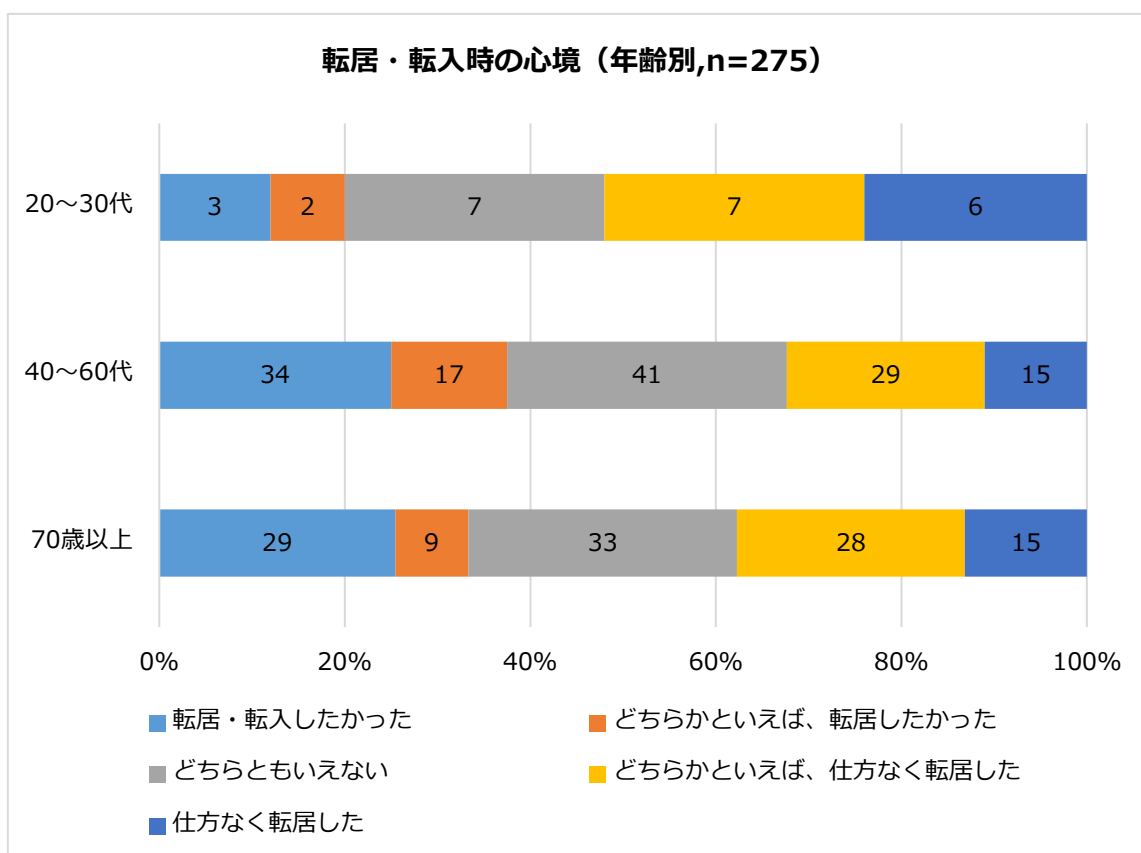
- ・市内での転居・転入を経て居住している方が多い状況となっています。



- ・結婚をきっかけとした転居が多い状況となっています。

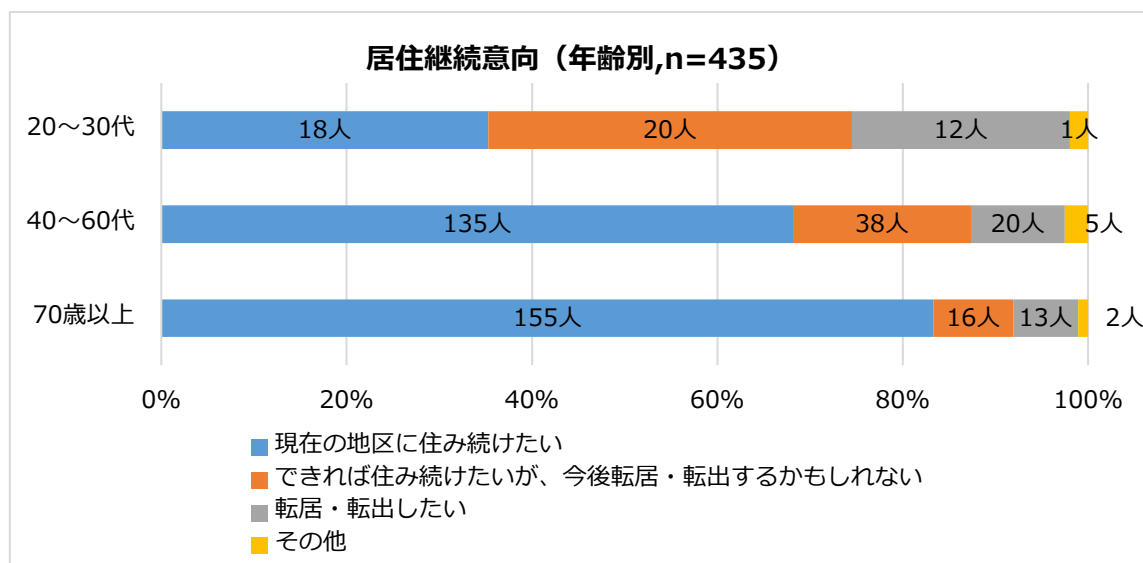


- ・転居・転入時の気持ちとしては、20～30代において「どちらかというと仕方がなく転居した」「仕方がなく転居した」と回答する傾向が強まっています。

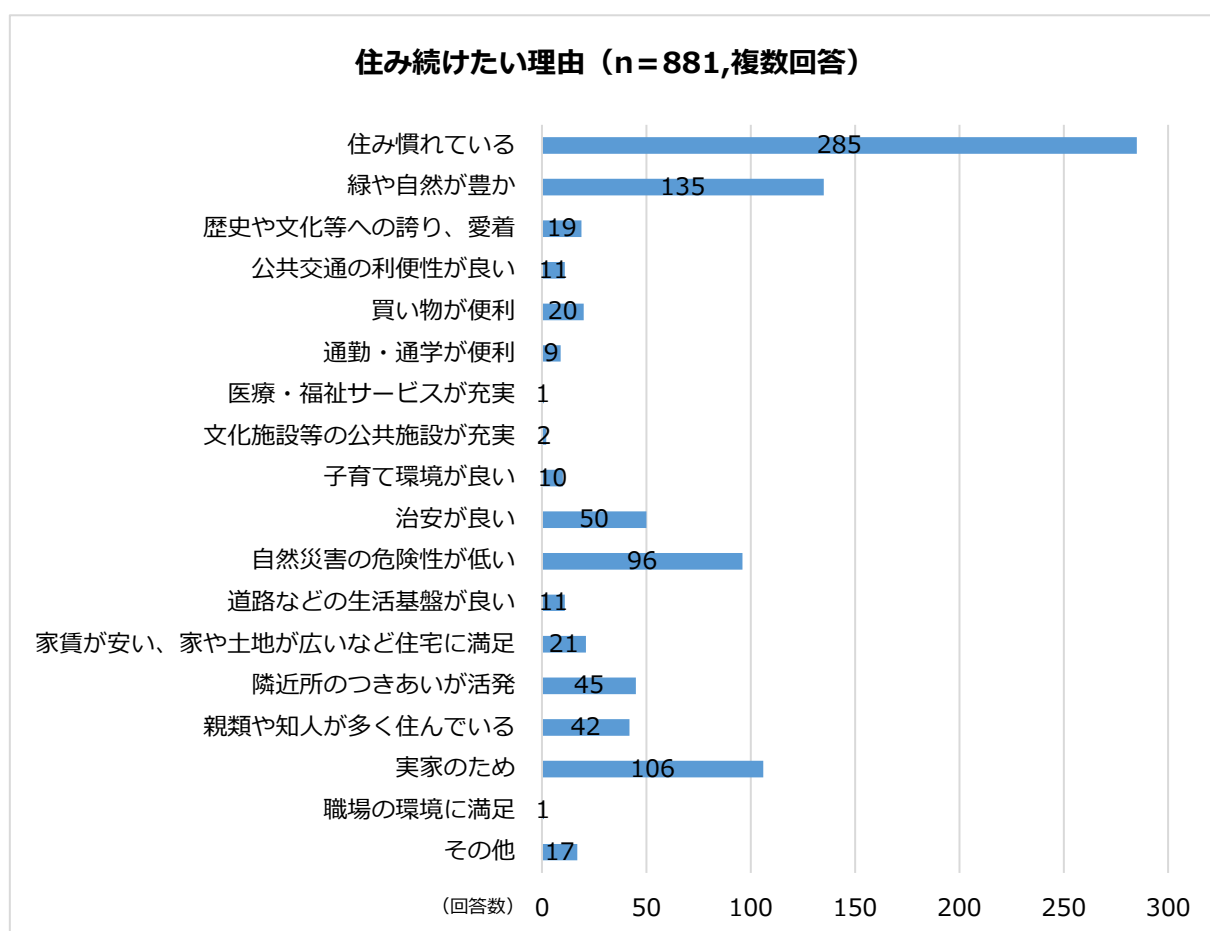


③居住継続意向について

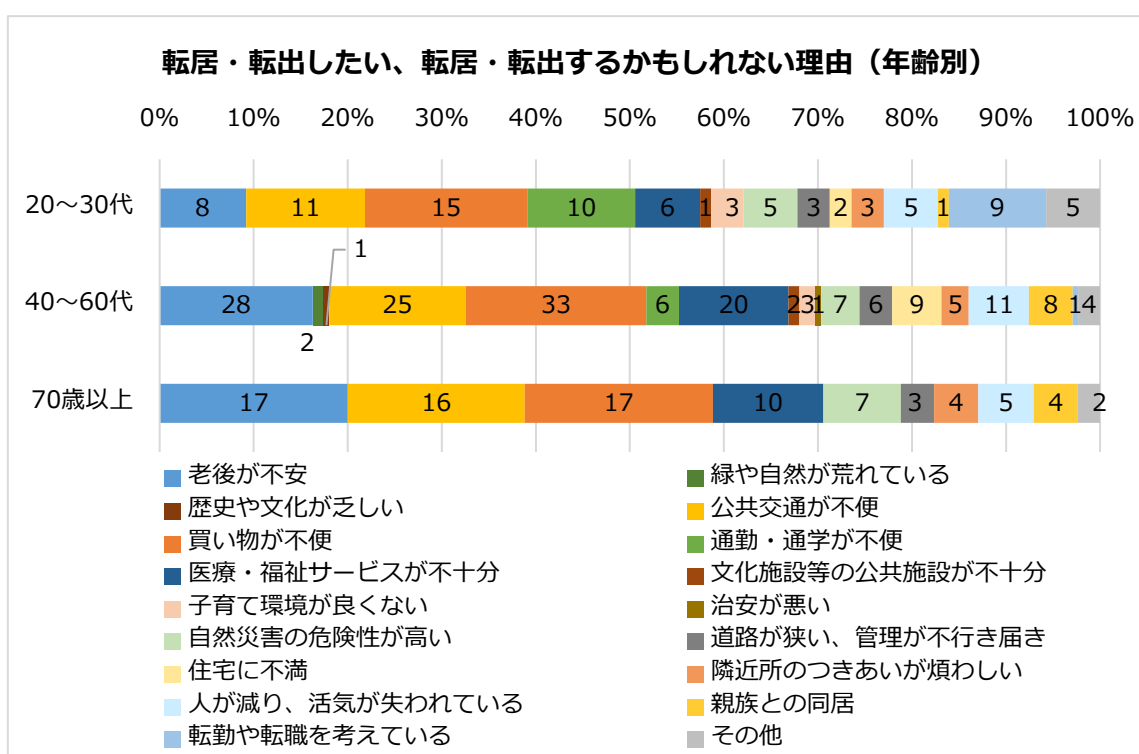
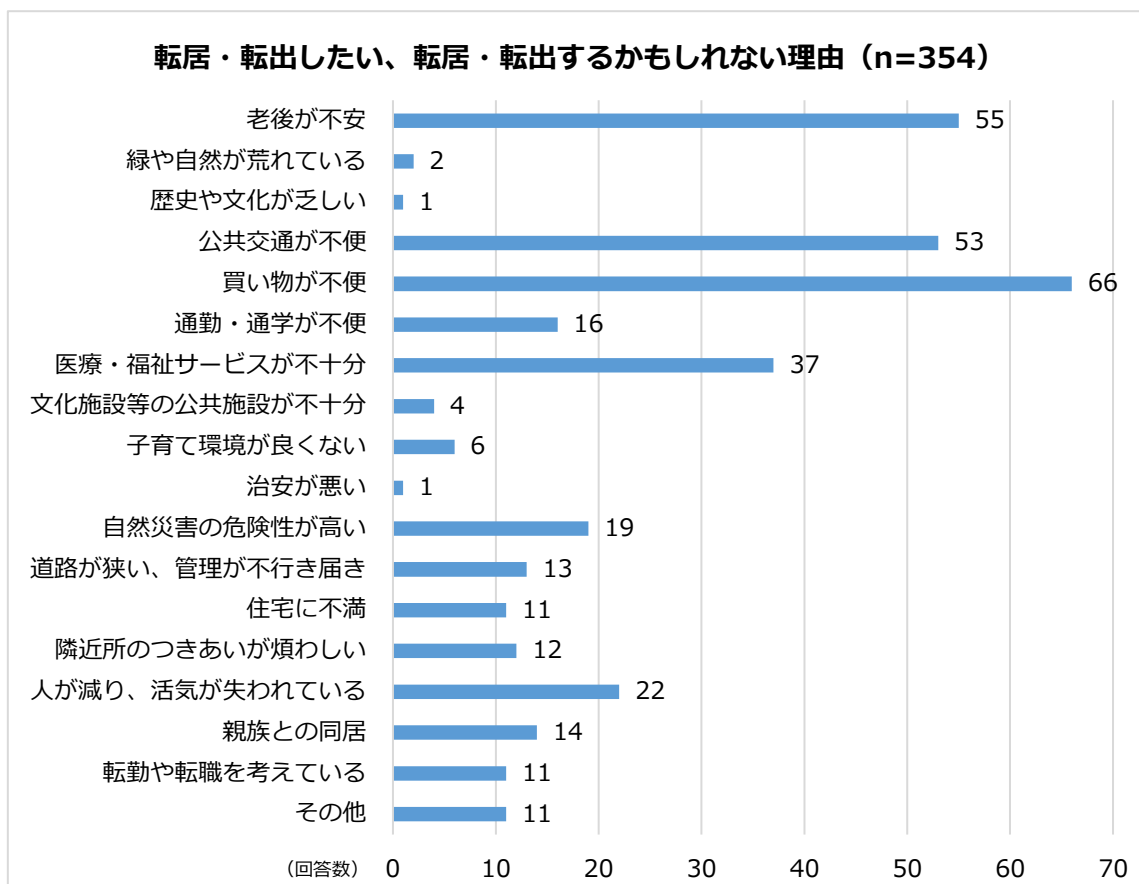
- ・回答者全体では住み続けたい人が多い一方で、20～30代については、他の世代に比べて、「今後転居・転出するかもしれない」「転居・転出したい」の割合が高くなっています。



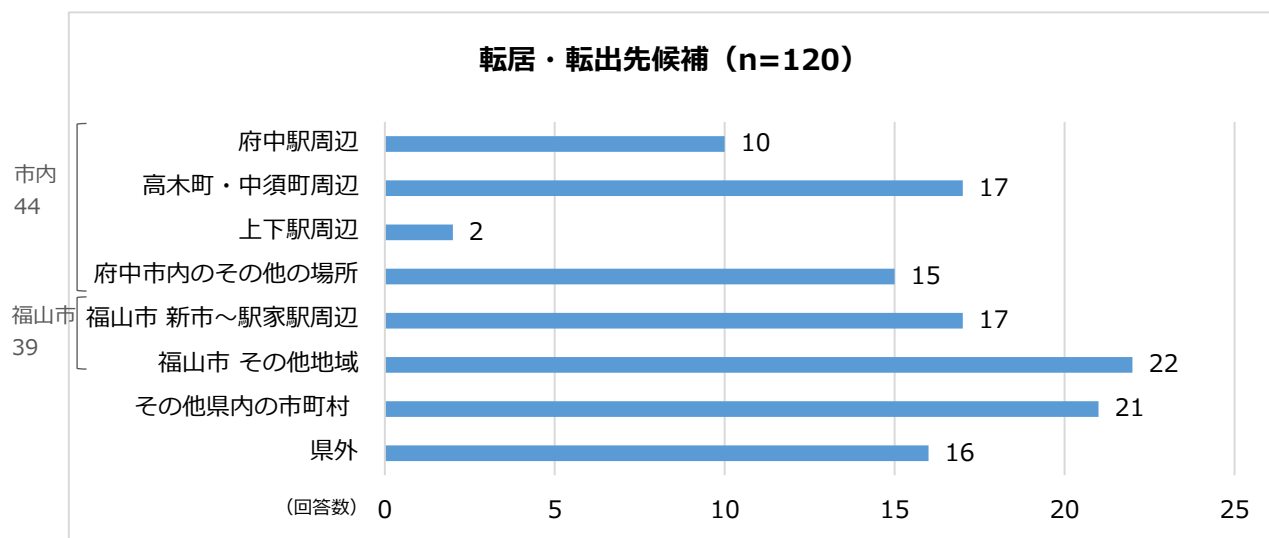
- ・住み続けたい理由としては、「住み慣れている」が最も多く、続いて「緑や自然が豊か」「実家のため」「自然災害の危険性が低い」が多く挙げられています。



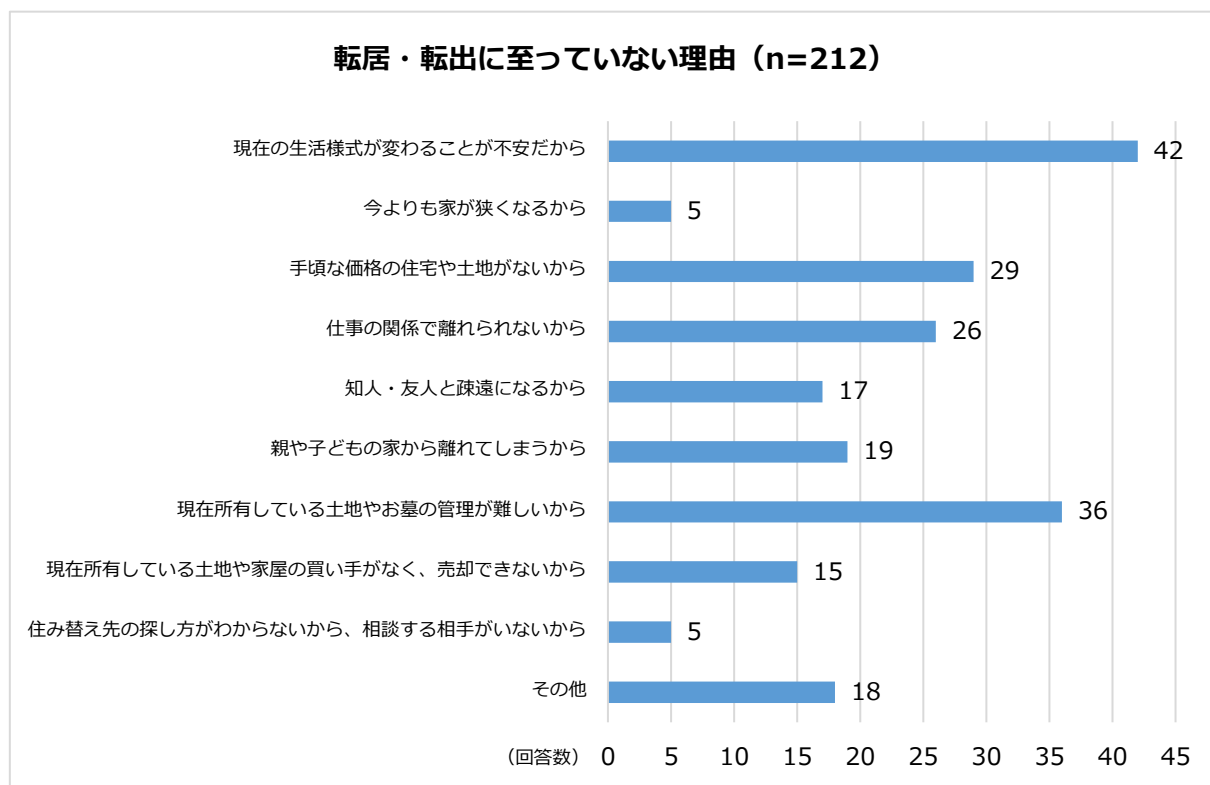
- ・転居・転出したい、転居・転出するかもしれない理由としては、「買い物が不便」「老後が不安」「公共交通が不便」が多く挙げられています。
- ・年齢別では、70代以上で上記3つの理由の占める割合が高くなっています。



- ・転居・転出する場合の候補としては高木町・中須町周辺、市外では福山市内が多く挙げられています。

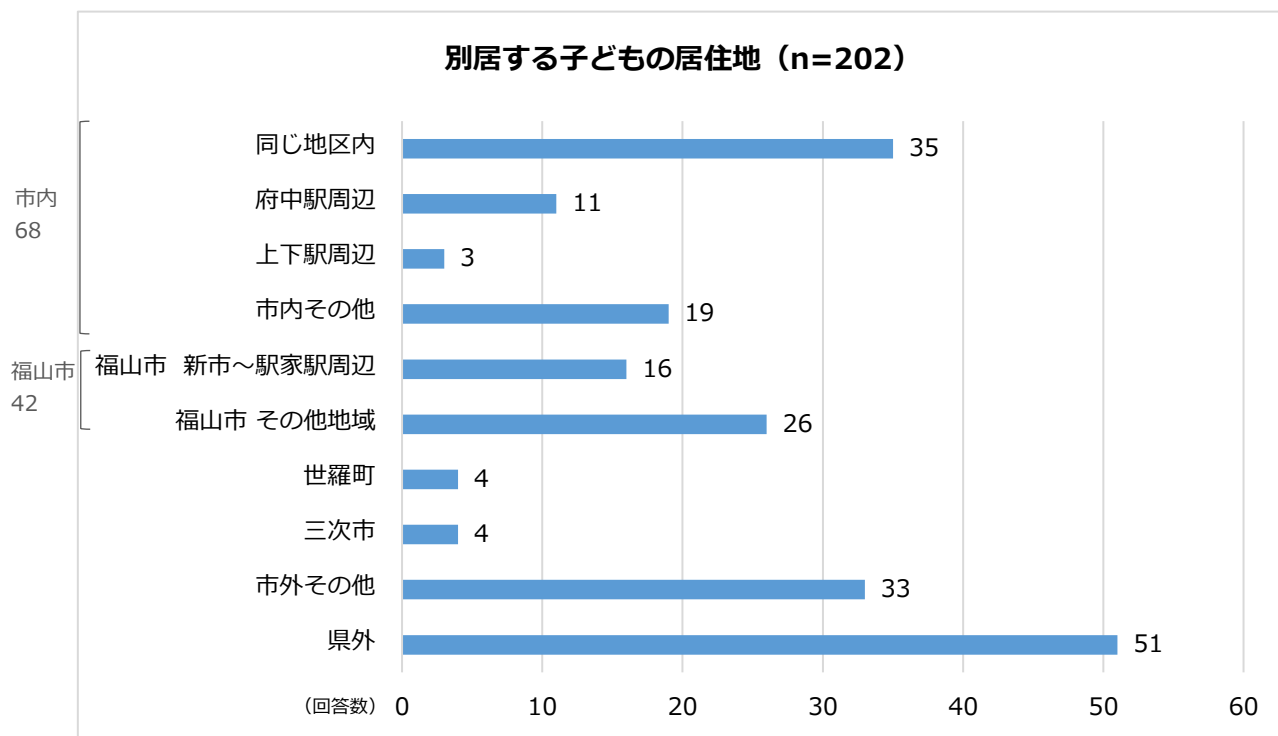


- ・転居・転出に至っていない理由としては、「現在の生活様式が変わること」「現在所有している土地やお墓の管理が難しいから」が多く挙げられています。



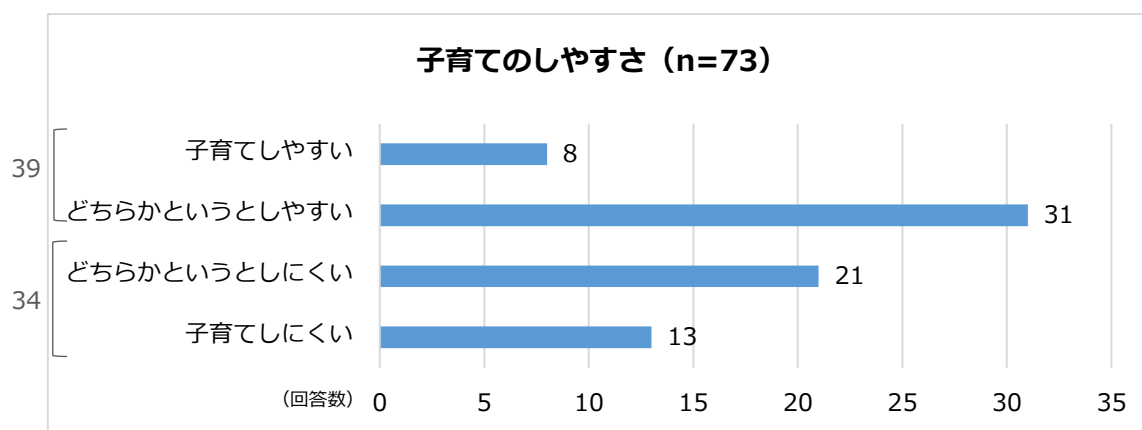
④別居家族の状況について

- ・別居する子どもの居住地については、市内では「同じ地区内」、市外では「福山市」が多く挙げられています。



⑤子育て・教育環境について

- ・全体として、「子育てしやすい」「どちらかというとしやすい」のほうが、「子育てしにくい」「どちらかというとしにくい」より若干多い状況となっています。
- ・子育てしにくいと回答した方からは、小児医療の充実や子どもの通学手段等に関わる意見がありました。
- ・子育てしやすいと回答した方からは、親や地域との良好な関係により子育てしやすいと考える意見がありました。

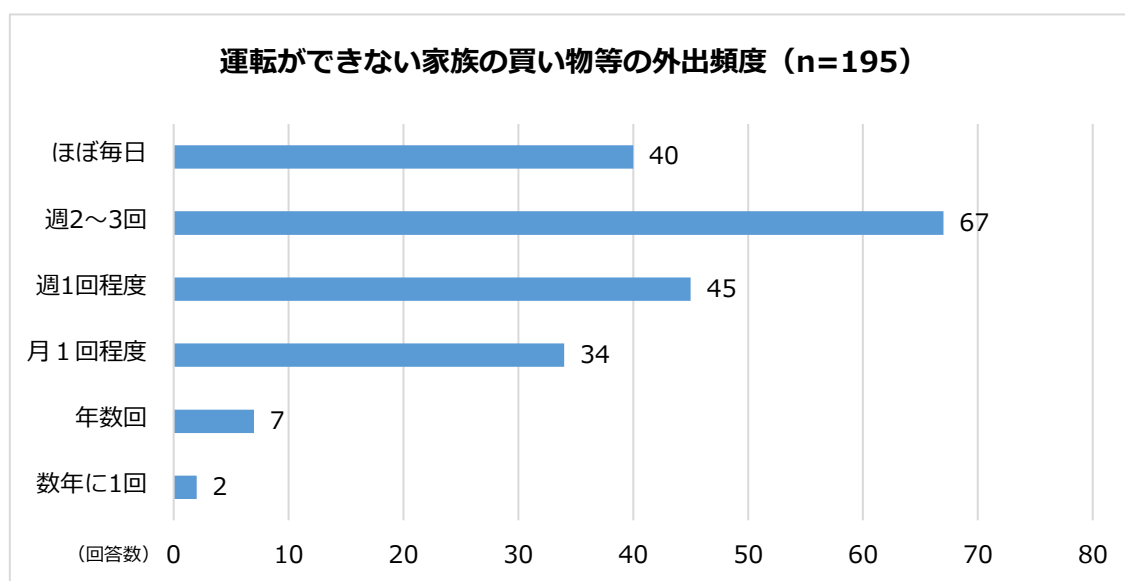
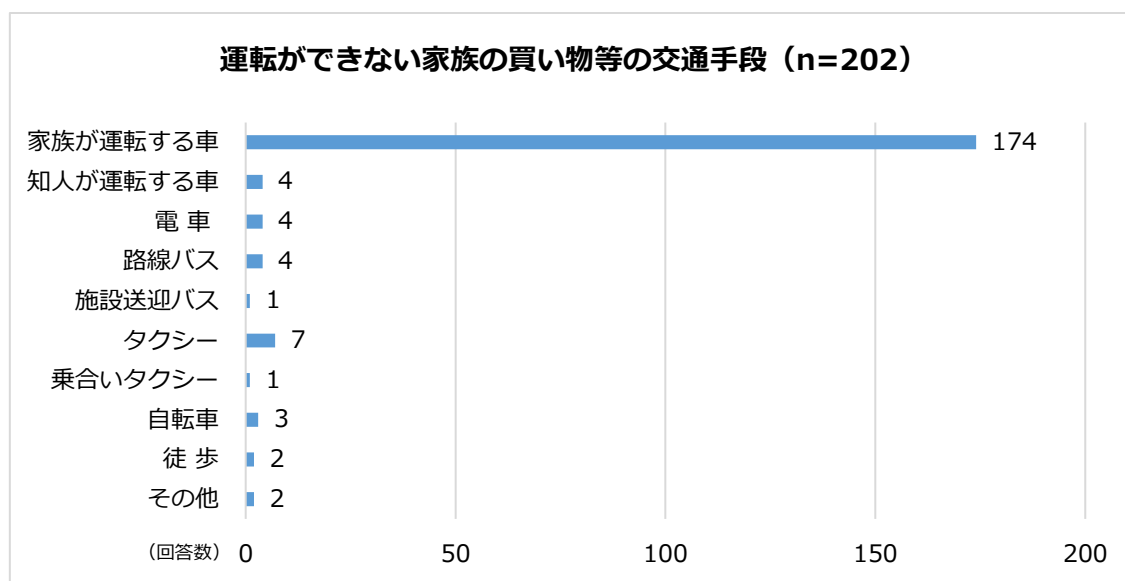


□子育てしやすい理由・しにくい理由の個別回答例

年齢 性別	住所	子どもの年齢	意見等
40代 女性	栗柄町	・15～19歳	【どちらかというとしやすい】 ・地域的には近所の付き合いもあり、特にさみしい感じもなく、いろいろ聞ける人がいるのでよい。
30代 女性	栗柄町	・0～7歳	【子育てしにくい】 ・小児科のみをしている病院がない。市民病院は先生がバラバラなのでかかりつけにはしにくい。 ・子ども用品を売っている店がない。
40代 女性	篠根町	・7～15歳 ・15～19歳	【どちらかというとしやすい】 ・学校環境で生徒の人数もあまり多くないため先生と子供の関係の距離が近く、また学校と地元の距離も近く、子どもの育成にあたり保護者や地域の方とコミュニケーションがとりやすく感じている。
30代 女性	篠根町	・0～7歳	【どちらかというとしにくい】 ・近所に子どもが少ないので子供同士の関わりが少ない。
40代 女性	上下町 小堀	・7～15歳	【どちらかというとしやすい】 ・親と一緒になので1人で子育てをしていない為、安心感がある ・都会に比べ安全と思う。
30代 男性	上下町 小塚	・7～15歳 ・15～19歳	【子育てしにくい】 ・学校が遠すぎる。中学校は自転車で帰宅に1時間はかかる。

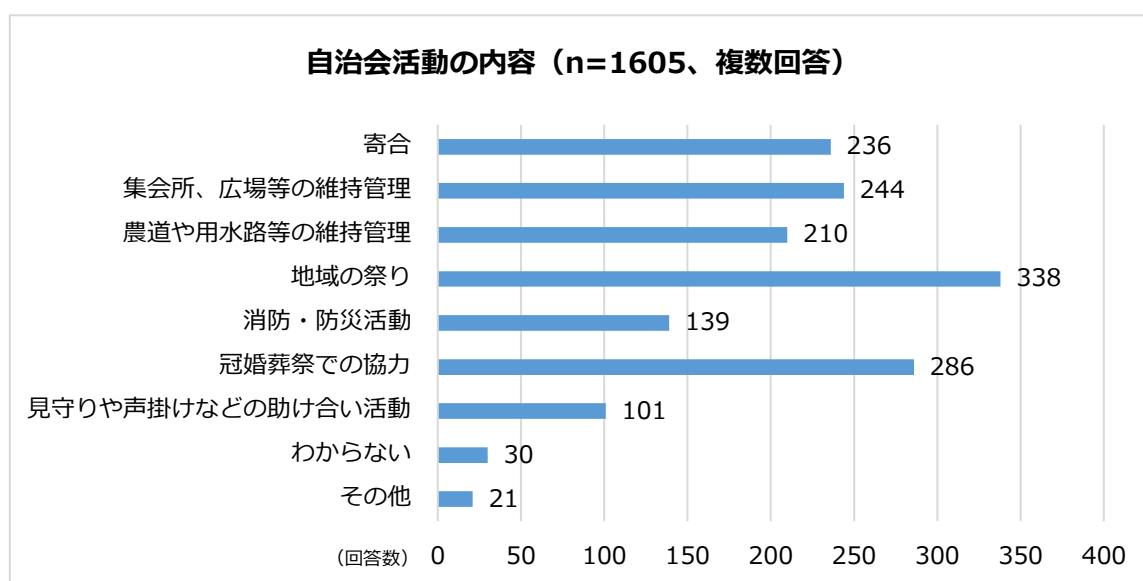
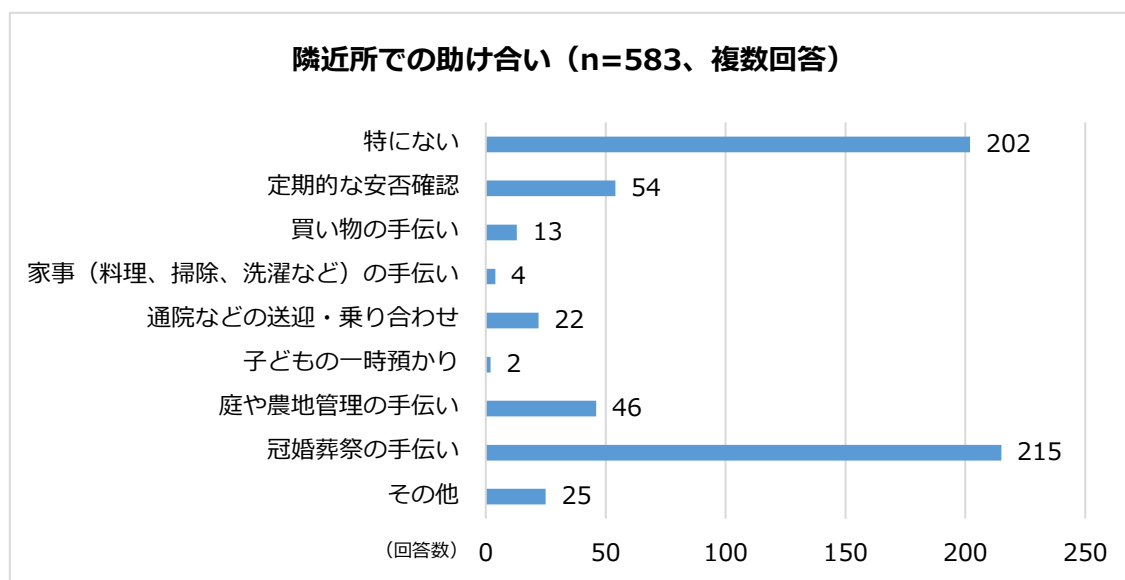
⑥交通手段について

- ・運転できない家族の買い物等における移動手段は、「家族が運転する車」が多く、外出頻度については、「週2～3回」が最も多いものの、「ほぼ毎日」も一定数みられました。

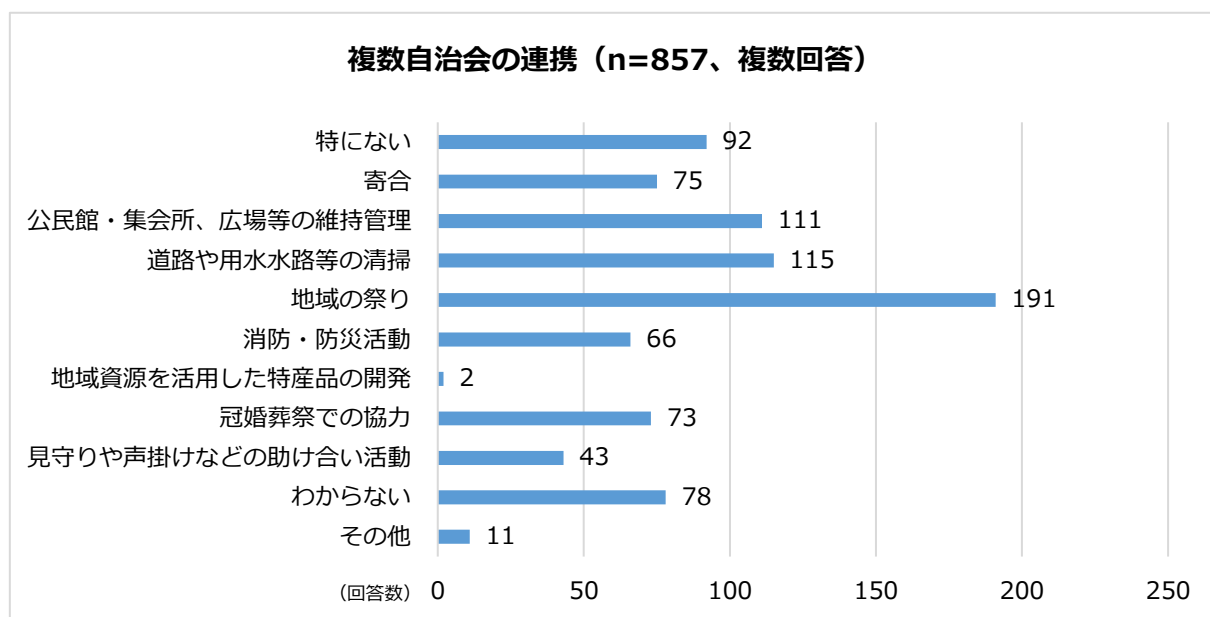


⑦コミュニティ活動について

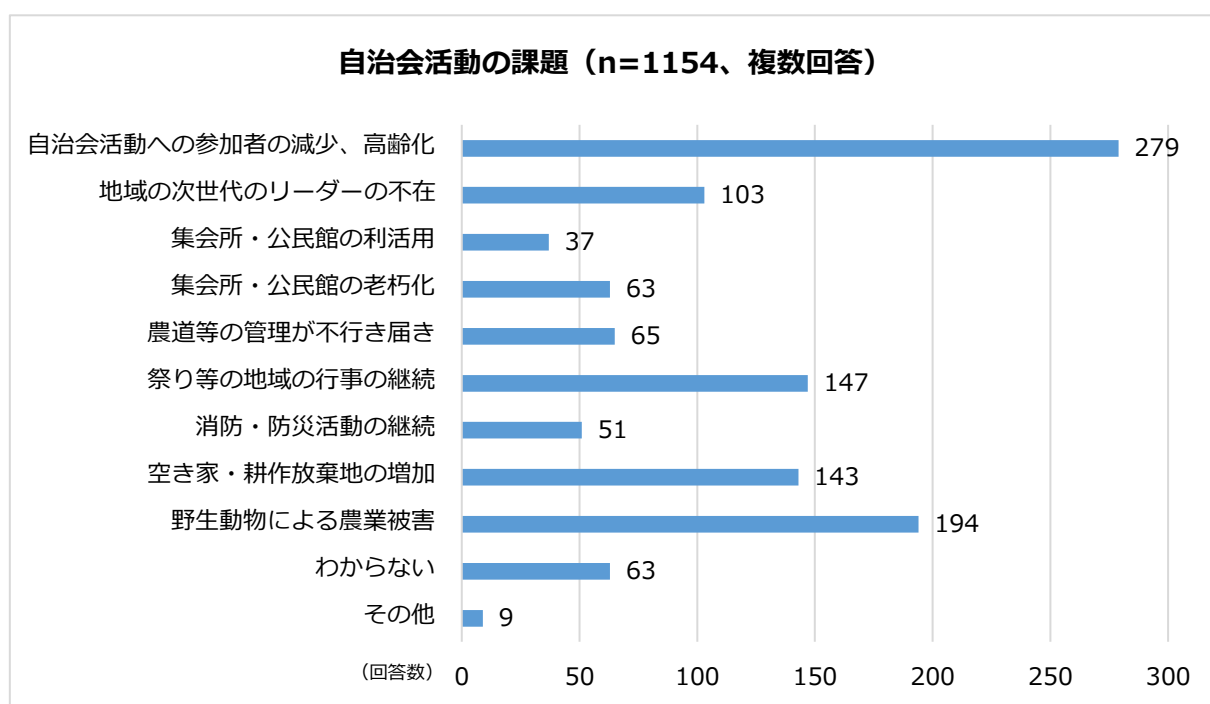
- ・隣近所の助け合い・自治会活動の内容ともに、冠婚葬祭や祭りといったイベントに関連した活動が中心となっています。
- ・また、声掛けや安否確認、送迎・乗合せといった日常生活での助け合いも一定数見られます。



- 他の自治会と共同で行っている取り組みとして、「地域の祭り」「道路や用水水路等の清掃」「公民館・集会所等の維持管理」が多く挙げられています。

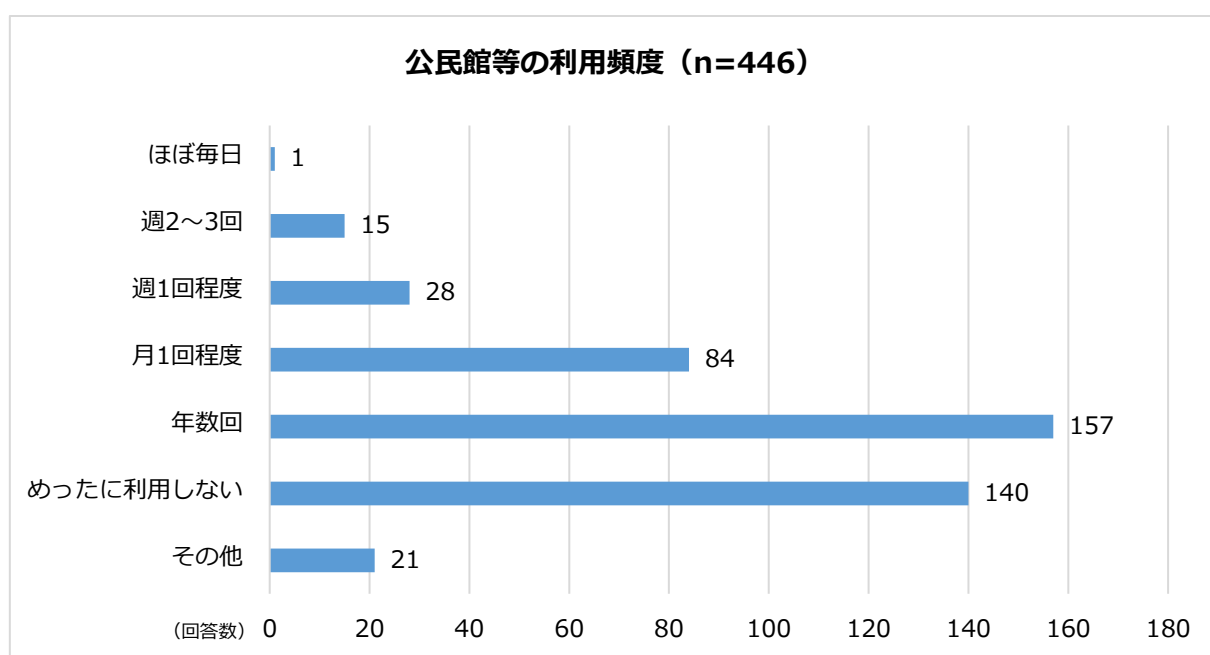
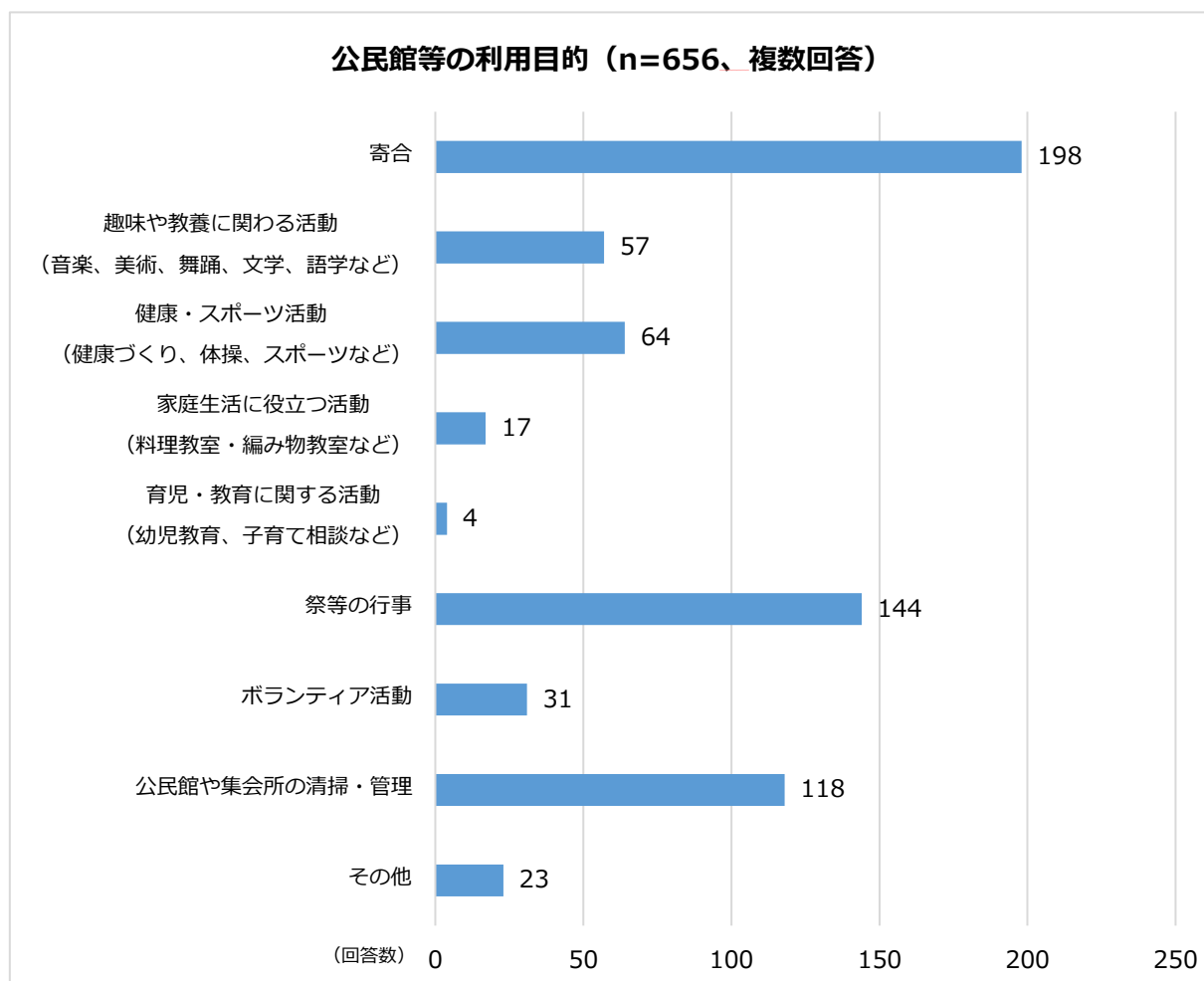


- 自治会活動における問題として、「参加者の減少、高齢化」「野生動物による農業被害」が多く挙げられています。



⑧公民館・集会所の利用状況について

- ・「寄合」「祭等の行事」での利用が多く、利用頻度は「年数回」が多い状況となっています。



⑨暮らしの満足度について

- 全体として「まあまあ満足している」が多い一方で、若い世代については、他の世代に比べて「あまり満足していない」の割合が高くなっています。

